

I 実践

1 研究主題

互いに認め合い、思いやりや助け合いの心をもって行動する児童の育成

2 主題設定の理由

本校の教育目標は、「自ら学び心豊かでたくましい田尻っ子の育成」で、めざす児童像は、①たすけあう子、②じょうぶな子、③りはつな子である。本校の児童の多くは明るく素直であるが、反面一部の児童は自己中心的な行動を取り、周囲とトラブルになることも少なくない。また、家庭環境によって、基本的生活習慣の形成や道徳性の差も見られる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人が相手を思いやる心の育成を図り、お互いに助け合う心を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の内容

- (1) 人権メッセージの作成
- (2) 道徳教育の充実
- (3) 豊かな体験活動の展開
- (4) 各教科での学習体系の工夫

4 実践内容

(1) 人権メッセージの作成

人権メッセージの募集をした。保護者へ協力を呼びかけ、家庭で人権について考える機会を設定した。また、各クラスの代表者の作品を人権コーナーに掲示した。



(2) 道徳教育の充実

年間道徳教育計画に基づいて、多様な題材で、人権感覚や人権尊重の精神の涵養を図っている。ビデオや拡大図、手作り教具などの資料が揃っており、充実した道徳の授業の展開が図られている。

(3) 豊かな体験活動の展開

ア 総合的な時間における体験学習（第4学年）

(ア) 福祉体験

「田尻の思いやりをさがそう」の学習の一環として、地域のゲストティーチャーの協力を得て、シニア疑似体験・車いす・アイマスク・手話などをグループに分かれて体験し、高齢者や障害のある人々の大変さや苦労の他、どのような助けが必要かなどを考えた。

(イ) お年寄りとの交流

地域の介護老人施設（田尻が丘ヘルシーケア）を訪問し、歌やリコーダーなどを発表したり、お年寄りの方々と一緒に話をしたりして交流を図った。また、手作りのカレンダーや励ましの手紙を作成して届けた。

イ 異学年集団との交流（全学年）

(ア) 青空タイム

毎月1回程度で、兄弟学級遊びを行い、異学年の交流を図った。年上の児童が中心となって、みんなが楽しめる遊びを計画・実行した。

(イ) 体力テスト

(ウ) なわとび大会

- (エ) 運動会における応援団やダンス
- (オ) 本の読み聞かせ
- (カ) クラブや委員会活動
- (キ) 集団一斉下校
- (ク) 学校探検
- (ケ) わくわくフェスティバル
- (コ) クリスマス交流会やツリー作り

エ 各教科での学習体系の工夫

全学年で、全教科にわたり二人対話を行っている。ペア同士で考えを交流させ、自分の考えをまとめたり広げたりすることを意図とする。二人対話では、相手の意見は受け入れながら聞き、疑問に思ったことは質問することになっている。

5 成果

- (1) 人権メッセージの作成では、夏休みの課題にすることで、保護者と一緒により深く人権について考えることができた。児童のメッセージから人権意識の高まりを感じた。
- (2) 総合的な学習の時間では、福祉体験やお年寄りとの交流を通し、高齢者や体の不自由な方の生活を学んだり理解を深めたりすることができた。また、今後どのように接していくことが大切なのか、自分たちにできることは何かを学ぶよい機会となり、実践意欲の高まりがうかがえた。
- (3) 異学年交流では、回を重ねるごとに高学年としての自覚を持ち、低・中学年に優しく接する姿が多く見られるようになった。低・中学年の児童も、高学年の児童に感謝と親しみを持って接していた。休み時間も、進んで異学年で遊ぶ姿が多く見られた。
- (4) 二人対話では、互いに思いやりを持ってお互いの意見や考えを交流させることができた。

II 今後の課題

今年は校内研修をまだ行っていない。本校は若い教員も多いので、3学期は研修会を開きたい。また、今後も、学校教育活動全体を通して人権教育を推進し、自己や他者を大切にする人権意識や人権感覚を育て、児童一人一人の意識の高揚や実践力の高揚を図っていききたい。系統的・計画的に活動し、教科領域の目標や内容を人権教育の視点から見つめ直し、どのような力をつけることができるか、明確にした上でそれぞれの活動を充実したものにしていきたい。

III 人権コーナー設置の様子



※全校児童の憩いの場である「どしっこ広場」の一角に、人権コーナーを設置し、人権メッセージやビデオを活用した道德の授業の感想、人権書道作品などを計画的に掲示している。